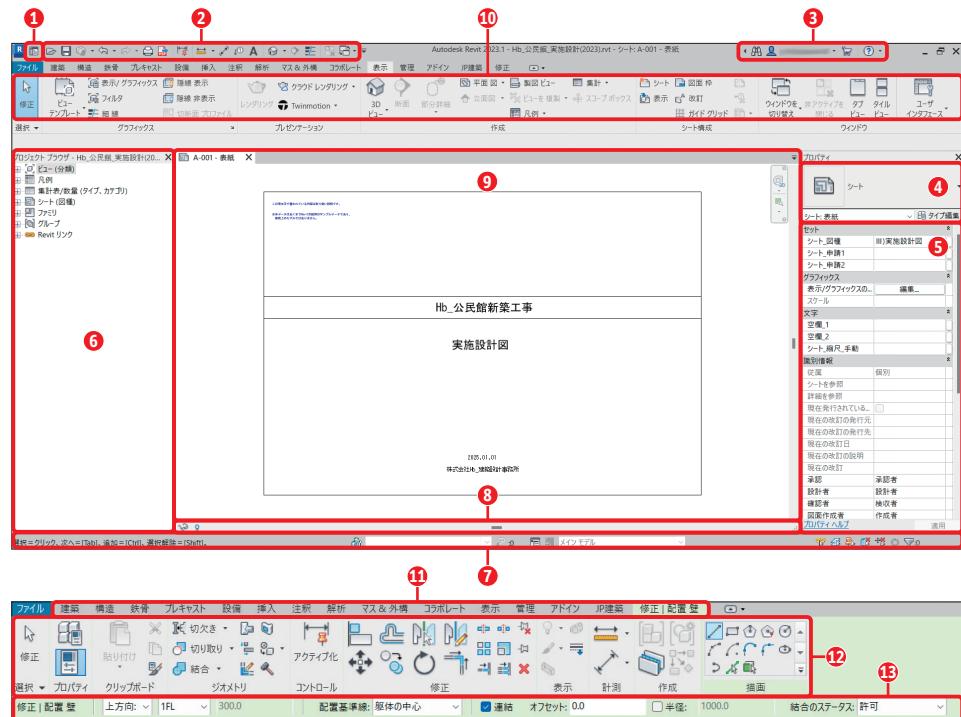


# 1/06 インターフェースを理解する

Revitのインターフェースの名称と役割を覚えましょう。

## Revitのインターフェース

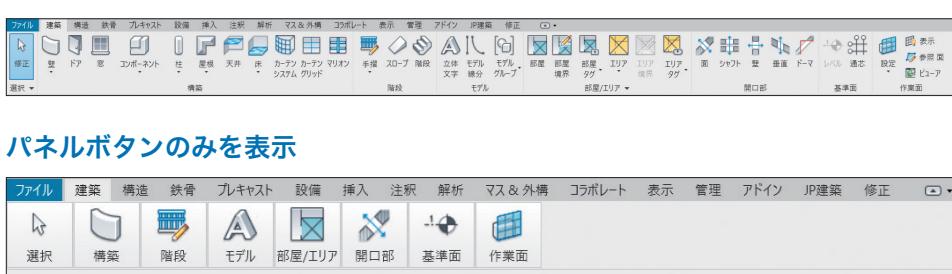
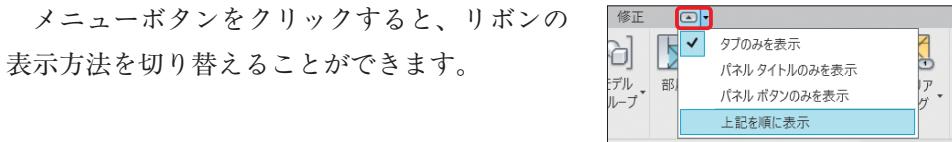


① Revitのホーム	[新規作成]、[開く]などの基本的なファイル操作を実行する
② クイックアクセスツールバー	頻繁に使うコマンドを配置できる
③ 情報センター	文字を入力してオンラインヘルプで検索できる
④ タイプセレクター	現在選択中の要素など、認識されているプロパティのファミリタイプ名が表示される
⑤ プロパティパレット	現在表示されているビューまたはオブジェクトのプロパティが表示される
⑥ プロジェクトブラウザ	プロジェクトの中のビュー、集計表、シート、ファミリ、グループ、リンクが階層表示される
⑦ ステータスバー	コマンド実行時に、操作のヒントなどが表示される
⑧ ビューコントロールバー	ビューの尺度や詳細レベル、表示スタイルなどが設定できる
⑨ 作図領域	ビューやシート、集計表が表示される

⑩ リボン	各コマンドが表示される範囲
⑪ リボンのタブ	各コマンドが種類ごとに表示される
⑫ リボンのツール	各コマンドが表示される
⑬ オプションバー	コマンドによって詳細なオプションを指定できる

## メニューの切り替え

メニュー ボタンをクリックすると、リボンの表示方法を切り替えることができます。



## パネルタイトルのみを表示



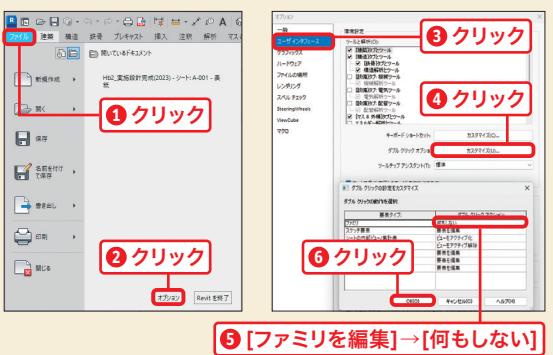
## タブのみを表示



## Memo

ファミリをダブルクリックするとファミリ編集画面に切り替わってしまいます。ダブルクリックのオプションをあらかじめ設定しておきましょう。

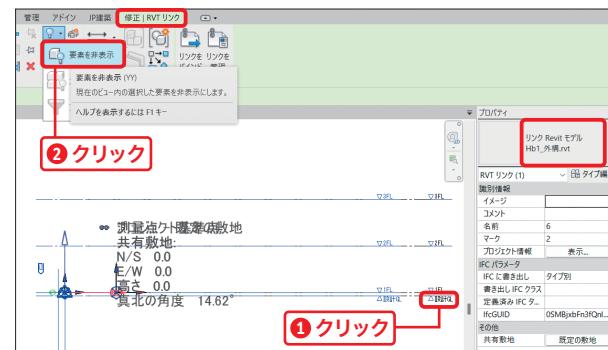
[ファイル]タブ→[オプション]→[ユーザーインターフェース]→[ダブルクリックオプション]の[カスタマイズ]をクリックして「ダブルクリックの設定をカスタマイズ」を開きます。「要素タイプ」[ファミリ]の[ダブルクリック アクション]は初期設定では[ファミリを編集]になっているため、[何もしない]を選択して変更します。



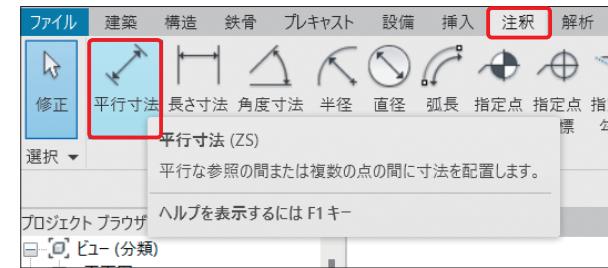
## 2/03 レベルを変更する

階高や軒高をRevitの「レベル」を使って調整します。

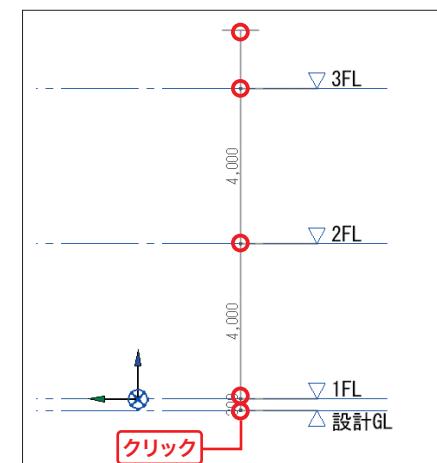
- ① プロジェクトブラウザの[ビュー(分類)]→[立面図(立面)]→[作業用]→[南立面]を開きます。リンクファイルのレベルと重なっているので非表示にします。リンクファイルをクリックし、タイプセレクタが「リンクRevitモデル Hb1\_外構.rvt」になっていることを確認して、[修正 | RVTリンク]タブの[要素を非表示]をクリックします。



- ② [注釈]タブの[平行寸法]をクリックします。

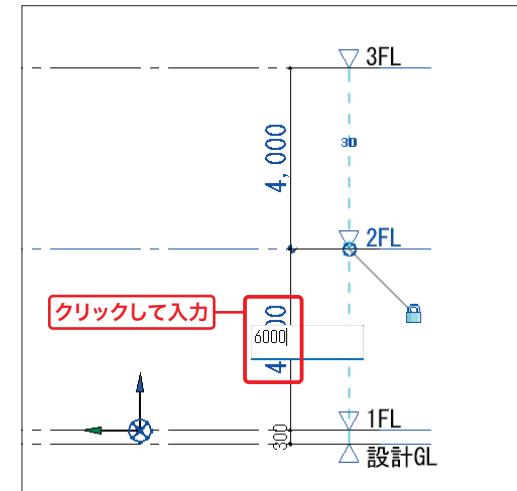


- ③ 図のように下から順にレベル線をクリックします。なにも無いところでクリックして確定させます。

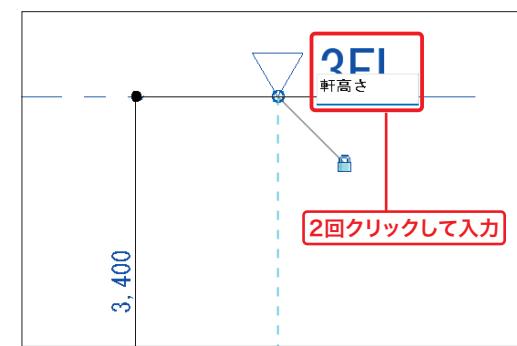


注：寸法の詳細は、「12-09 寸法を理解する」を参照してください。

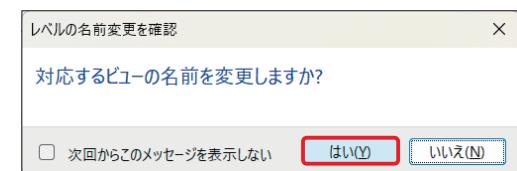
- ④ 変更したいレベル2FLを選択し、青くなつた1FL-2FL間の[4000]をクリックして、「6000」と入力します。



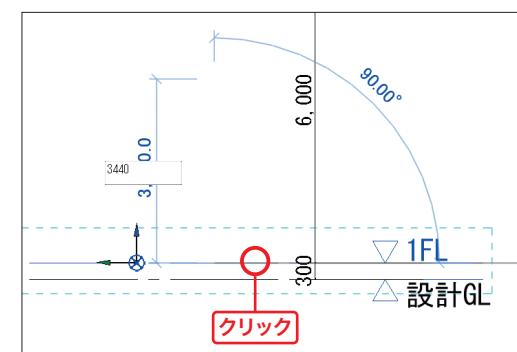
- ⑤ 3FLの文字を2回クリックして、「軒高さ」と入力し、Enterを押します。



- ⑥ 「対応するビューの名前を変更しますか？」に対しては、[はい]をクリックします。[はい]をクリックすることで、[平面図]→[作業用]「3FL」の名前が「軒高さ」に変わります。



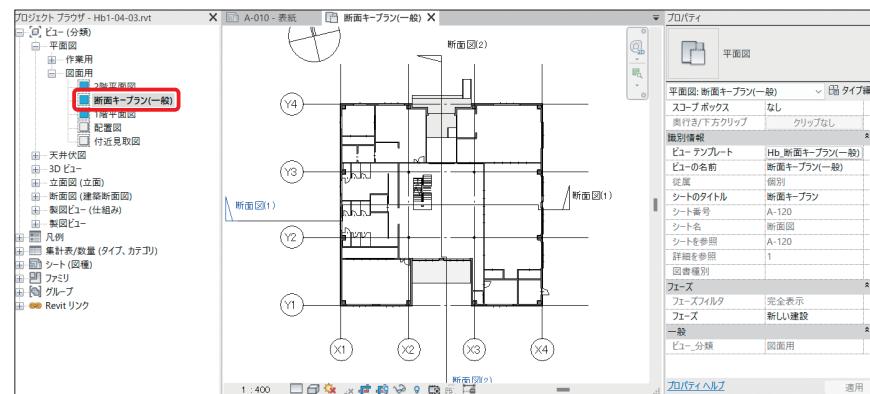
- ⑦ 通り芯のコピーと同じ要領で1FLのレベルを選択して、[コピー]コマンドで上部に「3440」の距離でコピーして、レベルの名前を「梁天端1」にします。



## 4 / 03 断面キープランを作成する

断面の位置を示す断面キープランを作成します。

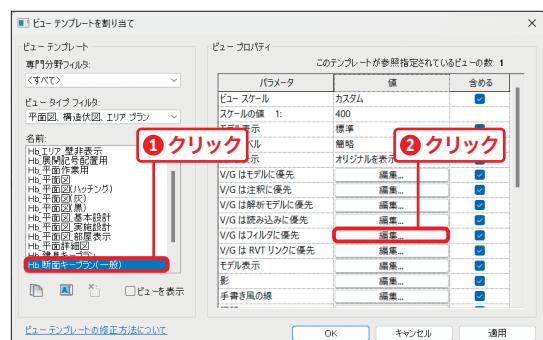
- ① 「Hb1-04-03.rvt」を開き、プロジェクトブラウザから[ビュー(分類)]→[平面図]→[図面用]→[断面キープラン(一般)]ビューを開きます。この「断面キープラン(一般)」ビューでは「建築断面図」以外のタイプが非表示になるように設定されています。どのように設定されているか確認します。



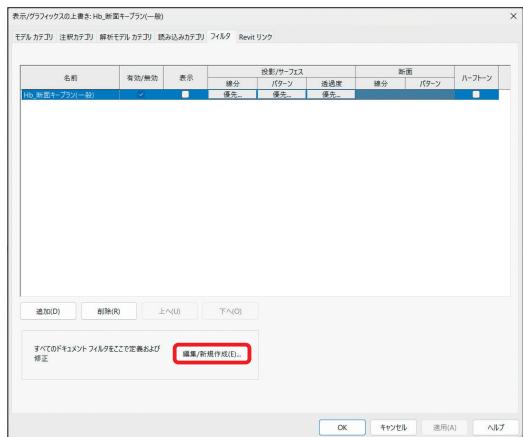
断面キープランに表示したくない断面ビューは「チェック用」断面図で作成します。



- ② 「断面キープラン(一般)」ビューの[ビューテンプレート]→[Hb\_断面キープラン(一般)]をクリックします。「V/Gはフィルタに優先」の[編集]をクリックします。



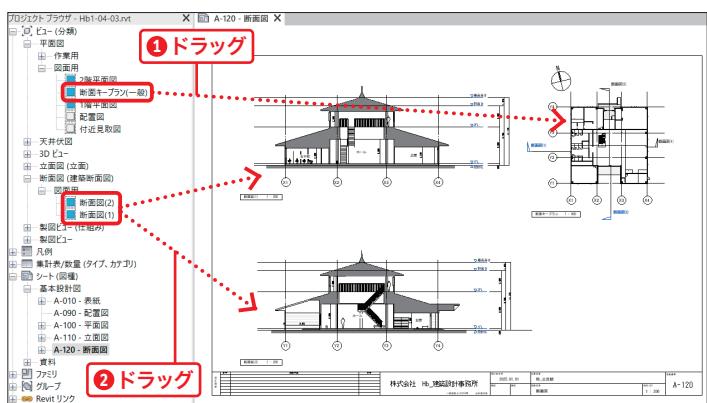
- ③ [編集 / 新規作成] をクリックします。



- ④ 「フィルタ規則」の[断面図]→[ファミリとタイプ]では、「断面図(建築断面図)と等しくない」ものが選ばれています。それが手順③で「Hb\_断面キープラン(一般)」というフィルタの設定で非表示になっています。チェック用など他のタイプで作成された断面図がある場合、このフィルタで非表示になります。なお、Revit LTにはフィルタ機能がありませんので、非表示にしたい断面図は各ビューで個別に非表示にします。



- ⑤ 断面図のシートに断面図ビューと断面キープランをドラッグして配置します。



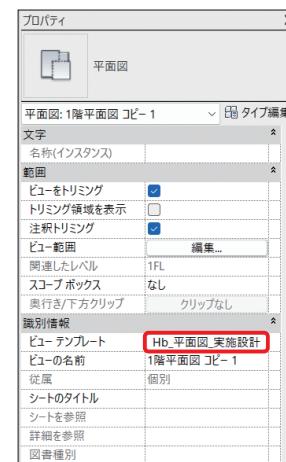
## 7/02 カラースキームを使用する

カラースキーム機能を使用すると、部屋の情報を部屋ごとに色分けできます。床の仕上げ材で色分けしてみましょう。

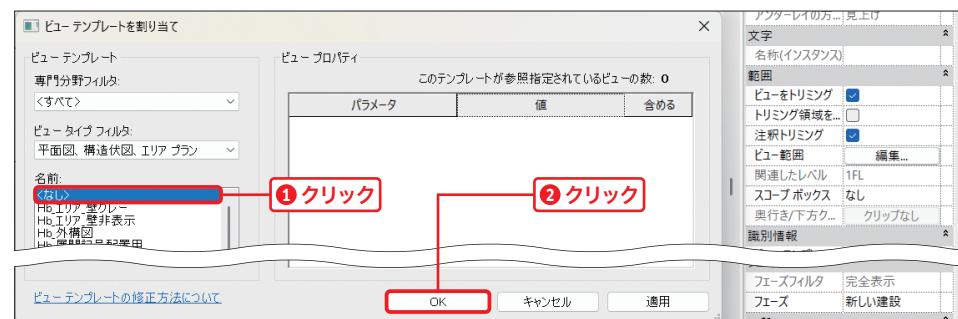
- ① 「Hb2\_実施設計完成(2023).rvt」を開き、プロジェクトブラウザから[ビュー(分類)]→[平面図]→[図面用]→[1階平面図]ビューを開きます。[1階平面図]の上で右クリックして[ビューを複製]→[詳細を含めて複製]をクリックします。



- ② ビューテンプレートが適用されているので、外します。[プロパティ]→[識別情報]→[ビューテンプレート]の[Hb\_平面図\_実施設計]をクリックします。



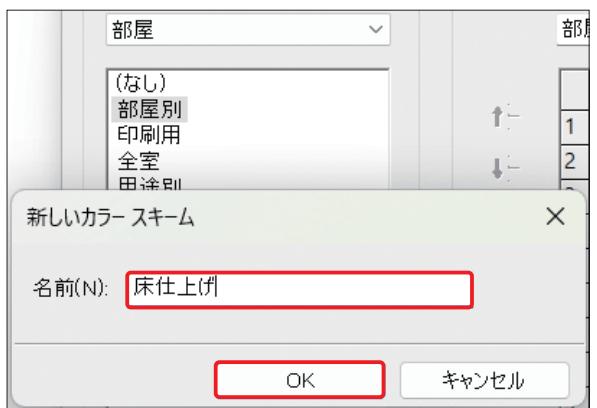
- ③ 「ビューテンプレートを割り当て」ダイアログボックスで、「なし」を選択して[OK]をクリックします。



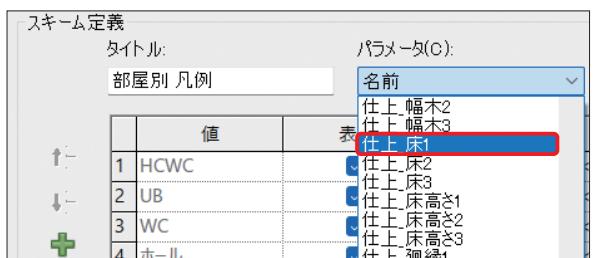
- ④ ビューの名前を「1階床仕上げ図」に変更します。[プロパティ]→[グラフィック]→[カラースキーム]の[なし]をクリックして、「カテゴリ」を[部屋]にします。「部屋別」を右クリックして[複製]をクリックします。



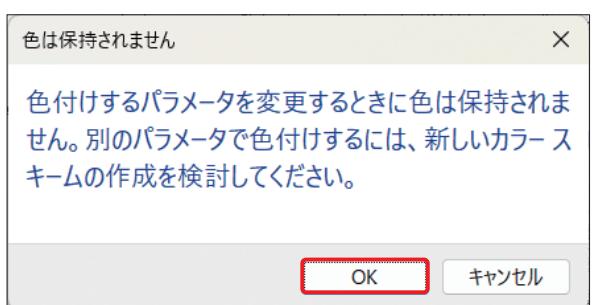
- ⑤ [名前]を「床仕上げ」と入力し、[OK]をクリックします。



- ⑥ [パラメータ]を「名前」から「仕上\_床1」に変更します。

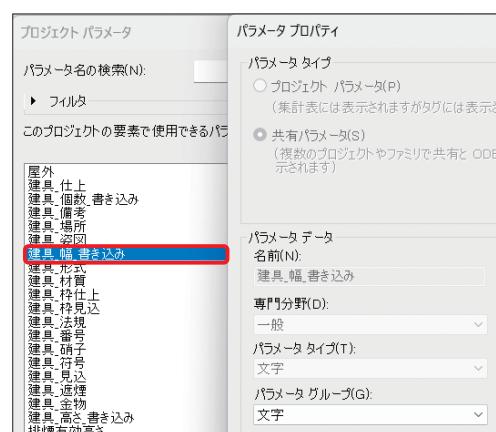
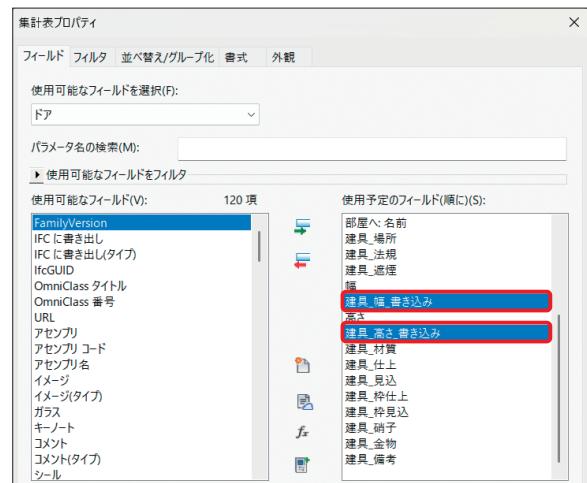


- ⑦ 図のようなメッセージが出たら、[OK]をクリックします。

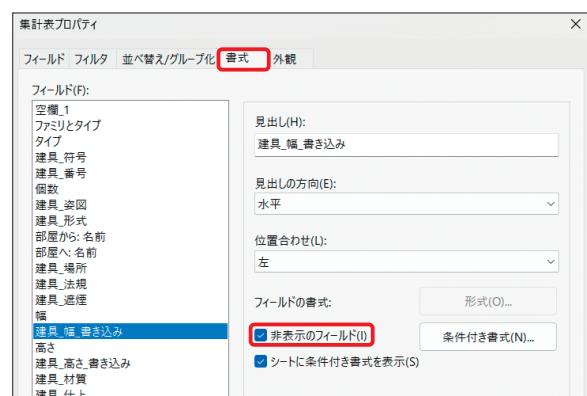


### 建具の幅や高さを表記する

建具の幅や高さは、建具が持っている「幅」や「高さ」のパラメータを表示するのが基本です。しかし、それでは思った数値を表示させることができないことがあります。その時のために「建具\_幅\_書き込み」「建具\_高さ\_書き込み」というパラメータを用意してあるので、表示を切り替えて使用します。

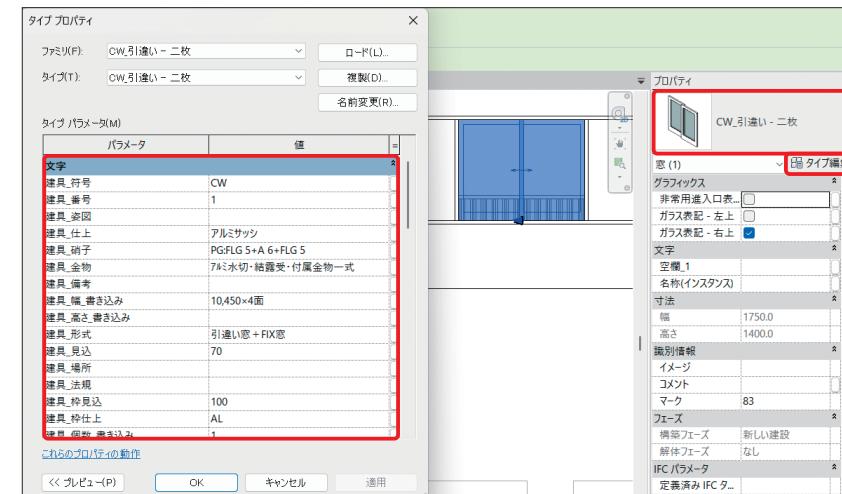


本書では「使用予定のフィールド」に追加していますが、「書式」タブの「非表示のフィールド」にチェックを付けて非表示にしています。表示用には使用しません。

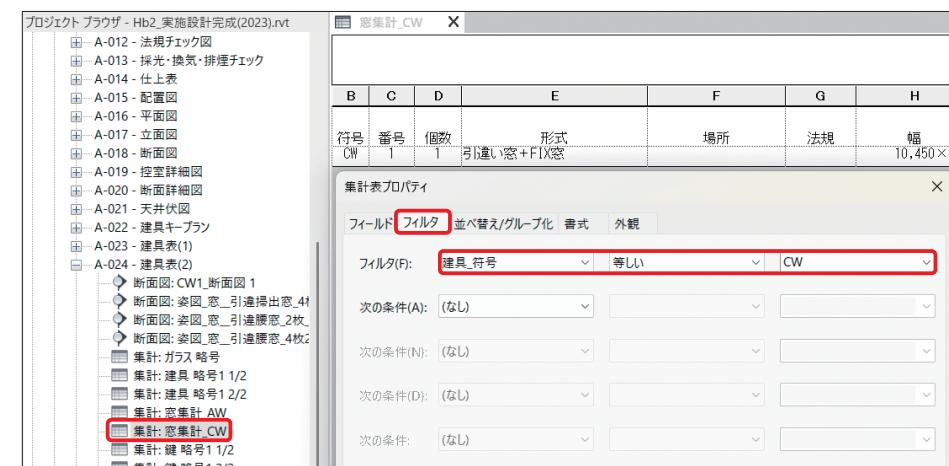


### カーテンウォールを集計する

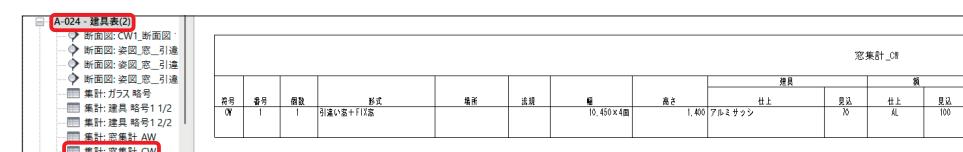
カーテンウォールのカテゴリは壁ですが、窓カテゴリとしたパネルに代表してカーテンウォール全体の情報を持たせています。



窓集計表で「CW」という建具符号をフィルタで選択します。



シートに集計表を配置します。



## 11/03 線の太さを理解する

印刷する時の線の太さの設定を理解しましょう。

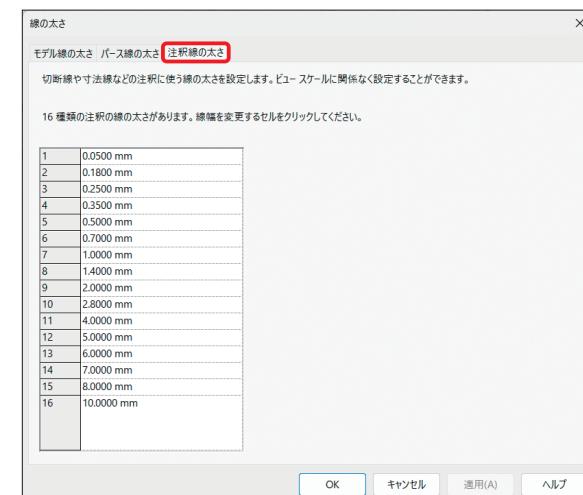
### 線の太さの設定

線の太さは[管理]タブの[オブジェクトスタイル]などで設定できます。図のような場合、壁が平面で切り取られる断面線は「線の太さ」の「断面」に該当するので、線の太さは「3」になります。また、立面図などの壁の線は「投影」になりますので、線の太さは「1」になります。

オブジェクトスタイル					
モデル オブジェクト   注釈オブジェクト   解析モデル オブジェクト   読み込まれたオブジェクト					
カテゴリ名の検索(C):					
フィルタリスト(F): <複数>					
カテゴリ	線の太さ	線の色	線種パターン	マテリアル	
地盤面	1	6	黒	実線	Hb_既定
垂直動線	1	3	黒	実線	Hb_既定
壁	1	3	黒	実線	Hb_既定
外構	1	3	黒	実線	Hb_既定
天井	1	3	黒	実線	Hb_既定
家具	1	1	黒	実線	Hb_既定

### 注釈線の太さ

通り芯や寸法線などは、壁などの「モデル線の太さ」とは異なり、「注釈線の太さ」で設定します。したがって線の太さが同じ「1」でも、壁の「投影」の「1」と通り芯の「1」の印刷時の太さを別に設定できます。



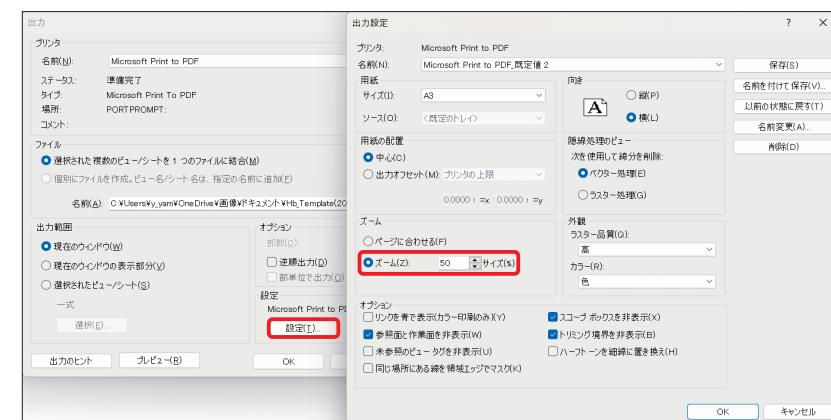
### モデル線の太さ

「線の太さ」の数値がどれくらいの太さで印刷されるかは、[管理]タブの[その他の設定]→[線の太さ]→[モデル線の太さ]でビューの尺度ごとに設定します。ここにないスケールの場合は、一番近いスケールの太さになります。図のような設定のとき、図面スケールが「1:100」の平面図で壁の「断面」が「3」であれば、100%で印刷した場合、0.18mmの太さで印刷されます。

線の太さ					
モデル線の太さ   バース線の太さ   注釈線の太さ					
モデルの線の太さは壁や窓などのオブジェクトの線幅をコントロールします。線幅は、ビュースケールに依存します。					
16種類のモデルの線の太さがあります。ビュースケールごとにサイズを変更することができます。線幅を変更するセルをクリックしてください。					
1:20	1:50	1:100	1:200	1:500	
1 0.1000 mm	0.0600 mm	0.0600 mm	0.0600 mm	0.0600 mm	
2 0.2000 mm	0.1500 mm	0.1500 mm	0.1400 mm	0.1200 mm	
3 0.3500 mm	0.1800 mm	0.1800 mm	0.1400 mm		
4 0.5000 mm	0.5000 mm	0.3500 mm	0.2500 mm	0.1800 mm	
5 0.7000 mm	0.7000 mm	0.5000 mm	0.3500 mm		
6 1.0000 mm	1.0000 mm	0.7000 mm	0.5000 mm	0.3500 mm	
7 1.4000 mm	1.4000 mm	1.0000 mm	0.7000 mm	0.5000 mm	
8 2.0000 mm	2.0000 mm	1.4000 mm	1.0000 mm	0.7000 mm	
9 2.8000 mm	2.8000 mm	2.0000 mm	1.4000 mm	1.0000 mm	
10 4.0000 mm	4.0000 mm	3.0000 mm	2.0000 mm	1.4000 mm	
11 5.0000 mm	5.0000 mm	4.0000 mm	3.0000 mm	2.0000 mm	
12 6.0000 mm	6.0000 mm	5.0000 mm	4.0000 mm	2.8000 mm	
13 7.0000 mm	7.0000 mm	6.0000 mm	5.0000 mm	4.0000 mm	
14 8.0000 mm	8.0000 mm	7.0000 mm	6.0000 mm	5.0000 mm	
15 9.0000 mm	9.0000 mm	8.0000 mm	7.0000 mm	6.0000 mm	
16 9.0000 mm	9.0000 mm	9.0000 mm	8.0000 mm	7.0000 mm	

### 縮小印刷

サンプルデータの図面枠はA3を基本にしていますが、図面枠をA1で作成してA3で出力する場合は注意が必要です。A1でA1に100%印刷したあとA3に縮小コピーしたときの線の太さと、A1からA3に50%縮小にして印刷したときの線の太さは異なります。必ず実際に印刷して確認しましょう。印刷のズーム(%)は、[ファイル]→[印刷]→[印刷]→[設定]→[ズーム]で設定します。

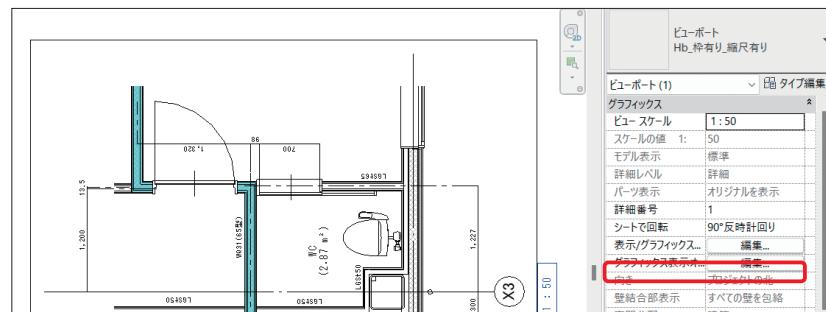


## 13/03 図面の回転方法を理解する

一般平面図で決めた図面の向き（プロジェクトの北）とは異なる向きにしたいことがあります。その時の図面の回転方法を理解しましょう。

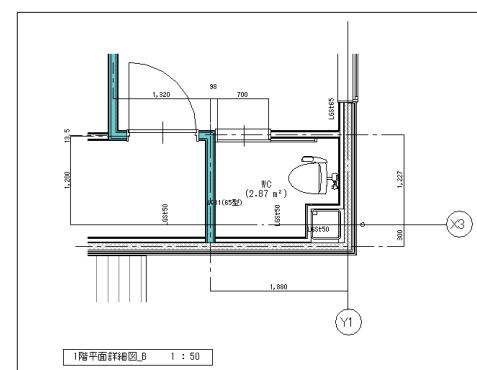
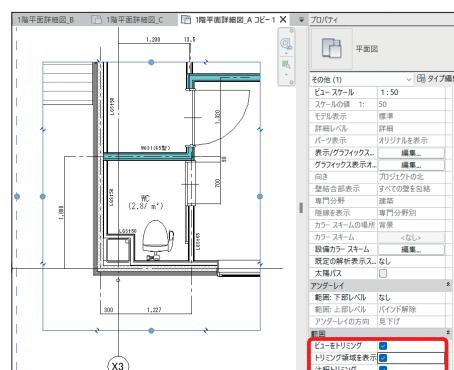
### シートで回転

シートにビューを配置したあとでビューを選択し、プロパティパレットの[シートで回転]で[90°反時計回り]を選択するとビューが回転します。この方法は印刷された図面を縦向きにして見る前提のときに使用します。



### トリミング領域を回転

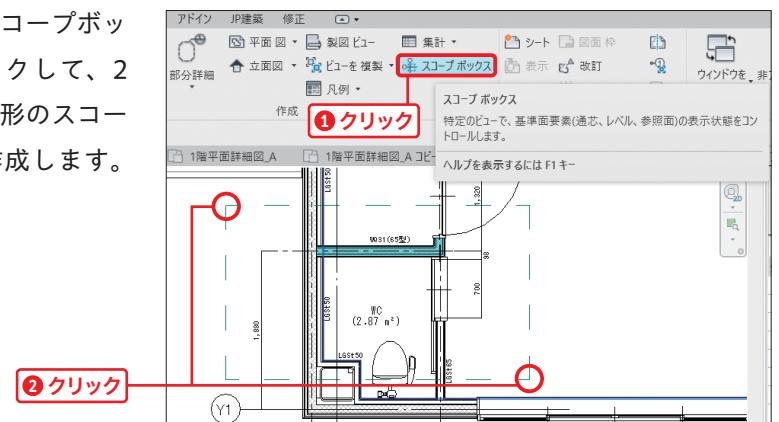
ビューの中に入り、トリミング領域を表示し、そのトリミング領域を選択して回転させ、範囲などを適宜調整します。この方法では、文字やビュータイトルの向きは回転しません。また、垂直方向の寸法の数値が逆さにななりません。



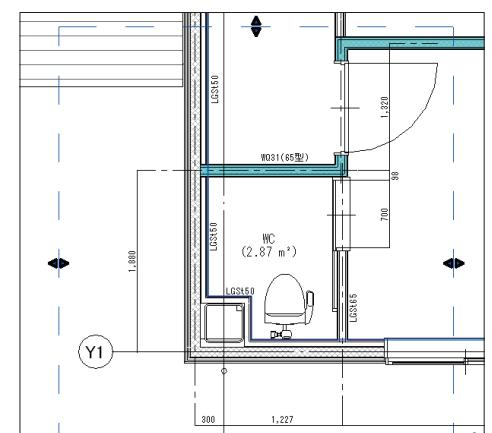
### スコープボックスで回転

この方法は一つの物件の中で一部だけ通り芯の角度が異なる場合などに便利です。また、上下階でトリミング範囲を統一するときにも使用できます。

- [表示]→[スコープボックス]をクリックして、2点クリックで矩形のスコープボックスを作成します。



- 作成されたスコープボックスを選択して、回転させます。



- ビューのプロパティパレットの[スコープボックス]を「スコープボックス1」にして、範囲などを適宜調整します。

